

令和元年5月16日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2018

課題番号：15K04483

研究課題名（和文）アート学習を活かしたインクルーシブ教育システム構築の基礎的研究

研究課題名（英文）Basic research of inclusive education system construction making use of art learning

研究代表者

茂木 一司 (Kazuji, Mogi)

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号：30145445

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、差異や多様性を活かすアートが共生社会の基盤になることを目指したインクルーシブアート教育構築の基礎調査研究である。本調査研究を通して、障害児者、高齢者、経済的弱者、LGBTQなどのさまざまなマイノリティが文化芸術によって自己承認・自己実現し、社会的に包摂される事例が示され、インクルーシブ教育におけるアート学習の重要性が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今後の共生社会構築の基礎研究として、全体性を特徴とするアートとインクルーシブ教育の共通理念を歴史的に明らかにし、障害、経済、性的などのマイノリティをアートにより社会的に包摂し、ケアされながら生きる人たちの現場の調査し、アート/教育はむしろ共生社会構築の基盤たるべきと提言した（インクルーシブアート教育）。エゴイズムが増大する現代社会で、差異や多様性を活かせる教育論の構築は、アートが本質的に持つ「自由」を基礎にすることのみが可能とする。本研究は、一般社会で特殊とされているアート/教育を人間が誰でも持つ創造的なコミュニケーションを育てる「生きるための身体技法」であることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This research is a basic research for inclusive art education theory that art that makes use of difference and diversity should be the basis of a symbiosis society. Through this survey, the significance of social inclusion by culture and art and the importance of art learning in inclusive education were clarified.

研究分野：美術科教育

キーワード：インクルーシブ教育システム アート教育 ワークショップ カリキュラム・教材・ツール開発 インクルーシブデザイン 福祉とアート アートプロジェクト 障害理解教育

様式 C-19, F-19-1, Z-19, CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

特別支援教育が推進される中で、日本の障害児教育におけるアート(美術、音楽、身体表現等)の教育は現在消極的な余暇や職業準備の技能教育になっている現状がある。それは、広義のアート(芸術)／教育を特殊なもののみならず、才能や趣向として性格付けしてきた歴史に関係している。古くは盲児の造形教育(福来四郎や西村陽平等の実践、敬称略)や近年障害者アートト(アールブリュット等)への注目があリ、これによって障害者などのマイノリティの表現活動及びその教育に対する実証的な研究が著しく遅れてきた。しかしながら、国連障害者権利条約の批准をはじめとする共生社会構築への基盤整備が進む中で、学校ばかりでなく、美術館等あらゆる場所を彼らを排除しないアクセシビリティの向上や合理的配慮への検討がされはじめている。

多様性がキーワードになる社会が志向される中で、不正解がなくたくさんの答えがあるアートとその教育は共生社会の基盤になるのではないかと考え、広義の“Education through Art(芸術による教育)”を文化芸術(教育を含む)×アートの現場の調査等を通して明らかにする必要があると考えた。

2. 研究の目的

先進的な特別支援教育関係機関(学校を含む)、及びアートを活かした活動を展開する福祉等施設の調査から、「障害者等が人格、才能、創造性を最大限に発達させ、自由な社会に効果的に参加する」共生社会構築のためにアート／教育は何ができるかを理論的・実践的に明らかにする。アートの持つ社会包摂の機能を基盤に、アートを「生きるための身体技法」、アート学習をそのための自発的根源的な学びと捉え、すべての人がフラットに社会に参加できるよう「多様性と参加の原理」を基本とする「インクルーシブアート教育」を提案することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) アートを活かしたインクルーシブ教育システム、すなわち「インクルーシブアート教育」の基礎理論構築のための文献調査及び国内の先進的地域・事例の調査。先進的な特別支援学校、国立特別支援総合研究所や、いわゆる社会包摂×アートの現場(アート活動をする障害者施設、経済的弱者を支援するアートNPOなど)を調査し、成功事例を含めた実態調査を実施した。

(2) 「合理的な配慮」を具体化するインクルーシブデザインによるメディア教材とカリキュラム開発のための調査研究及び、障害理解教育題材の開発・実践を実施した。

(3) 地域(前橋市)におけるインクルーシブ教育システムの運営組織構築と支援員育成・研修プログラム開発を実施した。

4. 研究成果

(1) インクルーシブアート教育論の提言

アートを活かしたインクルーシブ教育システム構築の基礎理論のための調査から、最終的には「インクルーシブアート教育論」(造語)を提案した。それは、障害を持つ子どもたちに対する美術科教育研究体制や内容がまだまだ不十分であり、学校の美術教育において障害児を筆頭に生きづらさを抱えた子どもたちに対するアート教育を十分に保証するシステムづくりと、さらにアートが社会に向けて持つ批評や包摂機能を考え、アートの教育はむしろ共生社会構築の基盤になるべきという、理念の構築・共有を図る提言である。

障害を含めてすべての人が共存共栄するインクルーシブな社会にはアートのような、差異や多様性を活かし、個性を調和させながら全体をつかむ総合的教育力が基礎になるべきではないかという理念づくりが重要という指摘をした。アートが知情意の調和(情=アートによって知と意が結ばれる)をはかり、断片化した知(ボーム、D)再統合することは、人々が感情によって右往左往する現代のメディア社会には必須の学習ではないか。こんな問題意識の中で、インクルーシブアート教育とは、アートが人間の尊厳を保つための「自由」を保証し、現代社会/教育を見直す理念と実践になることの提案である。したがって、インクルーシブ教育は障害者に限定されるものではなく、例えば経済協力開発機構(OECD)が指摘する社会経済・文化的な課題のある子どもたちなど、すべてのマイノリティを包摂する教育のことをいう。

調査対象は、特別支援学校関係では、群馬県立盲学校、筑波大学附属視覚特別支援学校、宮城県立視覚支援学校、国立韓国ソウル盲学校、国立特別支援総合研究所、目と手で見る教材ライブラリー、群馬県特別支援学校文化連盟他、アートに力を入れる障害者施設では、しょうぶ学園(鹿児島市)、アトリエインカーブ(大阪市)、鞆の津ミュージアム(福山市)、みずのき美術館(京都市)、工房集(川口市)、アトリエコーナス(大阪市)、クリエイティブサポートレッツ及びたけし文化センター(浜松市)、やまなみ工房(甲賀市)、アート活動をする放課後デイのHAP 広島(広島市)、精神障害者の表現活動を治療に用いる浦河べてるの家(べてる祭り、当事者研究全国交流集会、浦川市)、経済的弱者をアートで支援するココルーム(大阪市)等、その他障害者のアート・教育活動を考えるイベント(「視覚のない世界をデザインしよう」(森美術館)、「障害のある人の文化芸術活動と、これからの社会」(ブリティッシュ・カウンシル)、「人々を排除しない参加型デザイン」(東京都美術館)、「山下清とその仲間たちの作品展」(川崎市民ミュージアム)、「ポコラート全国公募展」(3331 アーツ千代田)、障害者芸術フォーラム(六本木ヒルズ)、「TURN」展(東京都美術館)等)、であった。

調査から、国連障害者の権利条約(2006年採択。日本は2014年批准)をはじめとする障害者等へ支援や新たな社会包摂施策、とりわけ東京オリンピックパラリンピックへ向けた近年の共生社会構築へ向かう動向の中で、アートによる施策も「障害者芸術支援法」及び「障害者芸術文化活動普及支援事業」等によって広がりが見えた。しかしながら、前述のように、特別支援教育における図工美術教育はまだ絶対的な研究者数の不足もあり、成果の蓄積と情報のネットワーク化等に改善の余地が多いに残り、特にこの領域のポイントになる学校と卒後の働き方(生き方)を連携する生涯学習的な視点の欠落の問題点が明らかになった。アートが「生きるための身体技法」あることを考えたとき、生きづらさを抱えた人たちがアートによって喜びや生活の糧を得られることは重要であろう。アートを実践する福祉施設を重点的に調査しわかったことは、世界でさまざまなモノコトヒトが断片化する中で、アートがそれらをつなぎ、全体性を回復させ、それぞれが自分らしくなれるように支援できることは、今後の共生社会構築を考える上で大きなヒントになるはずだ。学校(文部科学省)と卒後(厚生労働省や県等)の連携に向けて官民協働の実践が求められる。

「インクルーシブアート教育」論は、論文(1, 4, 13, 16, 17)、著書(4, 5, 6)にまとめ、中之条ビエンナーレや群馬県立近代美術館とのコラボレーションのほか、文化庁大学を活用した文化芸術事業「美術館等と連携する地域アートプロジェクトを活用するアートマネジメント人材育成プログラムの構築と実施・評価」の理念になり、(3)の人材育成に貢献した。

(2) インクルーシブな出来事・プロジェクトづくりとしての題材等開発

障害児者に対する教育が今まで健常者側の一方的な支援になっていたことを反省し、当事者が参加し、問題点を改善しながら、題材・カリキュラムをデザインすることを実践するための資料収集を実施し、インクルーシブデザインの手法を専門家から学ぶワークショップ等を実施し成果を得たが、それを活かす題材・カリキュラムの完成までには至らなかった(これは、次の「インクルーシブアート教育論及び視覚障害等のためのメディア教材・カリキュラムの開発」(基盤研究B・18H01007)に引き継いだ)。

アートが作品(モノ)ではなく、出来事づくりやそれを継続的に行うプロジェクトづくりに変容してきたことを踏まえ、障害児者の美術教育も単なる作品づくりではなく、活動プロセスの中で起こる出来事の記録や評価に変わるべきと考え、社会的課題を視野に入れ、障害理解教育(ASL当事者による授業)の題材開発・実践を行った。障害のとらえ方を社会モデルに変更するために、義務教育に障害理解教育を普及させることは緊要である。

(3) 地域(前橋市)におけるインクルーシブ教育システムの運営組織構築と支援員育成・研修プログラム開発

教育と福祉が分離する制度の中で、共生社会構築に機能するインクルーシブ教育システム構築は教育の一貫性や継続性を考え、生涯学習の中でこそ活かされることがわかる。これを踏まえ、文化庁大学を活用した文化芸術事業「美術館等と連携する地域アートプロジェクトを活用するアートマネジメント人材育成プログラムの構築と実施・評価」と協同し、「文化芸術による社会包摂」の理念の下、アートを教育だけでなく、医療や福祉領域でも活用できる人材育成を実施した。同時に、そのシステムをマネジメントする組織構築を実施し、大学(群馬大学、東京福祉大学)、美術館(アーツ前橋、広瀬川美術館)、福祉施設(はーとわーく)等をつなぎ、前橋におけるインクルーシブアート教育システム構築のための研究ネットワーク「まえばしアートスクール計画(インクルーシブアートスクール構想)」を構築した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計18件)

1. 茂木一司, インクルーシブアート教育システム構築のための覚え書き, 群馬大学教育実践研究, 33号, pp. 33~46, 2016, 査読あり
2. 喜多村徹雄・茂木一司・手塚千尋・菅野剛・新井洋美・高橋初穂・深須砂里・園田樹里・内田望美・塩川岳, フラットホーム@中之条ビエンナーレ2015—群馬大美術+同特別支援学校 アーティストによるアートカフェとワークショップの実践—, 群馬大学教育実践研究, 33号, pp. 45~63, 2016, 査読あり
3. 春原史寛・喜多村徹雄・茂木一司・宮川紗織・深須砂里・相良浩, Gの杜プロジェクト「かこ・いま・みらい」(2)—美術館と大学との連携はどのような成果を生んだのか— 33号, pp. 65~85, 2016, 査読あり
4. 茂木一司, インクルーシブアート教育システム構築のための覚え書き 第2報, 群馬大学教育実践研究, 34号, pp. 53~61, 2017, 査読あり
5. 春原史寛・茂木一司・手塚千尋・木村祐子・小田久美子・宮川紗織・茂木克浩・高木露子, 「まえばし未来アトリエ」における学びの成果と課題—アーツ前橋・群馬大学連携による人材育成事業の意義—, 群馬大学教育実践研究, 34号, pp. 63~76, 2017, 査読あり
6. 茂木克浩・茂木一司, 中学校美術教育における協同的な学びに関する一考察, 群馬大学教科教育研究, 16号, pp. 69~74頁, 査読あり

7. 鈴木紗代・茂木一司, インクルーシブ教育の考えをもとにした図工美術教育における映像メディア表現の実践的研究, 群馬大学教科教育研究, 16号, pp. 63~68, 2017, 査読あり
8. 茂木一司, 「まえばしアートスクール計画」と広義のアートエデュケーション, まえばしアートスクール計画実施報告書, p. 1, 2017, 査読なし
9. 茂木一司, 前橋をインクルーシブで創造的なまちにする, まえばしアートスクール計画実施報告書, p. 2-7, 2017, 査読なし
10. 茂木一司, 観客であることをやめて, 「わからないもの/わかりあえないこと」から何を学ぶか, 前橋聖務日課(まえばしアートスクール計画 A コース実施報告書), p. 32, 2017, 査読なし
11. 茂木一司, 《まえばしアートスクール計画》と B コース《インクルーシブな場づくり》, 実践 B コース実施報告書 まちなかだれでも場づくりコース, p. 2, 2017, 査読なし
12. 坂倉杏介・茂木一司, 対話と実践を段階的に体験。場づくりのヒント... 「いつでも開けておくこと」, 実践 B コース実施報告書 まちなかだれでも場づくりコース, pp. 35-38, 2017, 査読なし
13. 茂木一司, インクルーシブアート教育システム構築のための覚え書き 第 3 報, 群馬大学教育実践研究, 35号, pp. 71~78, 2018, 査読あり
14. 茂木克浩・茂木一司, 中学校美術教育における PBL 型学習—「人 DESIGN Project」の事例研究—, 群馬大学教育学部紀要芸術・技術・体育・生活科学編, 53号, pp. 25-35, 2018, 査読あり
15. 茂木一司・手塚千尋・佐藤真帆・笠原広一・池田東志, 文化多様性の理解を目的とした色彩構成ワークショップの開発, 日本美術教育研究論集 2018, pp. 19-26, 2018, 査読あり
16. 茂木一司「共生社会をめざす教育の中で美術教育はどうしたらいいのか?—インクルーシブアート教育という提案—」, 教育美術, No. 911, pp. 14-19, 2018, 査読なし (本号の特集・招待編集者)
17. 茂木克浩・茂木一司, 中学校美術科教育における P B L 学習の再検証—インクルーシブデザインの視点から—, 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編, 54号, pp. 17-25, 2019, 査読あり
18. 梶原千恵・茂木一司, 中学校美術部の活動におけるインクルーシブ教育の可能性—被災地における美術部×地域×アーティストによるアートプロジェクトの実践—, 群馬大学教育実践研究, 36号, pp. 73-80, 2019, 査読あり

〔学会発表〕 (計 30 件)

1. 茂木一司・川井田祥子・平井康之, インクルーシブな社会をつくるためのアート/デザイン教育の役割—さまざまな立場からの提言—, 2015 年度美術科教育学会リサーチフォーラム in 大阪<美術科教育 学会・インクルーシブ美術教育研究部会主催シンポジウム>, 2015. 6. 23, 大阪教育大学天王寺キャンパス(大阪市)
2. 茂木一司・上田假奈代・小田井真美・住友文彦, アートがかかわる創造的なコミュニティ(創造都市)づくりと社会的排除/包摂, 平成 27 年度文化庁大学を活用した文化芸術事業「美術館等と連携する地域アートプロジェクトを活用するアートマネジメント人材育成プログラム」の構築と実施・評価, 2015. 6. 28, アーツ前橋(前橋市)
3. 茂木一司・住友文彦・橋本誠・熊谷薫・須藤崇規・吉澤弥生・友川綾子・大澤寅雄・中島佑太・山城大督, 美術館等と連携する地域アートプロジェクトを活用するアートマネジメント人材育成プログラムの構築と実施・評価, 同上, 2016. 3. 6, アーツ前橋(前橋市)
4. 茂木一司, 住中浩史, 中平紀子, 日沼禎子ほか, 中平千尋さんが問いかけ続けたこと, そして未来へ, AAF Café vol. 15, 2016. 3. 19, アサヒアートスクエア(東京都墨田区)
5. 郷泰典・菊池宏子・茂木一司・住友文彦, アートプロジェクトと学び, 平成 28 年度文化庁大学を活用した文化芸術事業「美術館等と連携する地域アートプロジェクトを活用するアートマネジメント人材育成プログラム」の構築と実施・評価, 2016. 6. 15, 前橋市中央公民館(前橋市)
6. 今中博之・三宅優子・茂木一司・住友文彦, 同上, 2016. 7. 16, シネマまえばし(前橋市)
7. 染谷滋・茂木一司・春原史寛, ラボンヌと生活造型実験室, 同上, 2016. 7. 31, 広瀬川美術館(前橋市)
8. 滝澤達史・佐藤真人・関根沙耶花・小山田徹・茂木一司, 社会における場づくりとアートの可能性(表現の森関連シンポジウム), 同上, 2016. 8. 28, アーツ前橋(前橋市)
9. 中平紀子・小林稜治・住中浩史・杉浦幸子・茂木一司, 中平千尋のことがび... それ以降... 美術教育はこれから何ができるのか—, 同上, 2016. 8. 31, 広瀬川美術館(前橋市)
10. 高橋伸行・山口(中上)悦子・茂木一司・住友文彦, 医療とアート, 同上, 2016. 11. 13, シネマまえばし(前橋市)
11. 伊藤亜紗・細馬宏通・茂木一司・住友文彦, 身体性のインクルージョン—条件の異なる身体が関わる時に何がおこるか?—, 同上, 2016. 12. 4, シネマまえばし(前橋市)
12. 茂木一司・宮川紗織, 地域アートプロジェクトによる美術/教育—まえばしアートスクール計画@群大×アーツ 前橋の連携から—, 第 39 回美術科教育学会, 2017. 3. 28, 静岡県コンベンションアーツセンター(静岡市)

13. 手塚千尋・春原史寛・木村祐子・茂木一司・茂木克浩・高木露子, まえばし未来アトリエの実践1 インクルーシブ・マインドの育成を目的としたアート マネジメント講座のデザインと評価, 第39回美術科教育学会, 2017. 3. 28, 静岡県コンベンションアーツセンター(静岡市)
14. 春原史寛・手塚千尋・木村祐子・茂木一司・小田久美子, まえばし未来アトリエの実践2 展示作成ワークショップのプログラム開発と 学校/美術館における鑑賞教育への展開の可能性, 第39回美術科教育学会, 2017. 3. 28, 静岡県コンベンションアーツセンター(静岡市)
15. 久保田翠・茂木一司, インクルーシブ社会/教育にアートはどのように関係/貢献できるのか? -NPO 法人クリエイティブサポートレッツの活動からみえるもの-, 第39回美術科教育学会, 2017. 3. 29, 静岡県コンベンションアーツセンター(静岡市)
16. Kazuji Mogi, Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Koichi Kasahara, Satoshi Ikeda, Akiko Gunji, Fumihiro Sunohara, Workshop: Drawing on Diversity: How socially engaged art education promotes cultural diversity and strengthens community, International InSEA Congress, 2017. 8. 9, Dague, Corea
17. Kazuji Mogi, Art as the Basis for Education: from collaborative to inclusive art education, International InSEA Congress, 2017. 8. 10, Dague, Corea
18. 手塚千尋・佐藤真帆・笠原広一・池田吏志・茂木一司, 文化多様性の理解を目的とした色彩構成ワークショップの開発, 第51回日本美術教育研究発表会 2017, 2017. 10. 15, 東京家政大学(東京)
19. 飯塚花笑・茂木一司, 「僕らの未来」上映会・対談・ワークショップ, 平成29年度 第2回アートスクールカフェ, 2017. 11. 5, 広瀬川美術館(前橋市)
20. 茂木一司, 招待講演「アートの学び」がつくるインクルーシブな社会の可能性, つくば市民大学 とともに楽しむアート・ラボ 第7回, 2017. 12. 3, 中央労働金庫つくば支店(つくば市)
21. 大内進・多胡宏・茂木一司, 「視覚障害児の美術教育を考える」シンポジウム, 2018. 1. 21, 広瀬川美術館(前橋市)
22. 茂木一司, インクルーシブアート教育とまえばしアートスクール計画, 文化庁×九州大学共同研究プロジェクト「アートと社会包摂」キックオフフォーラム, 2018. 3. 6, アクロス福岡(福岡市)
23. 茂木一司・熊谷薫・今井朋・岡安賢一・石幡愛・高橋かおり・落合千華・湯澤文昭・石坂亥士・山賀ざくろ・木村祐子, 文化芸術による社会包摂の評価手法・ガイドライン構築の事例研究ーキックオフ・シンポジウム「音でさわる, 目で踊る〜高齢者施設えいめいにおける音と身体ワークショップは, 介護の現場に何をもたらすのか〜」, 群馬大学と文化庁の共同研究事業「文化芸術による社会包摂型度の評価手法・ガイドライン (エビデンス・プロジェクト評価)の構築とアート実践による検証研究: 地域アートプロジェクトの記録・評価・アーカイブの一体化による障害者及び高齢者等の生の高度化をめざして」, 2018. 3. 9, 特別養護老人ホーム永明(前橋市)
24. 山下完和・茂木一司, インクルーシブ美術教育研究部会「インクルーシブ社会/教育にアートはどのように関係/貢献できるのかーやまなみ工房で紡がれる日常と表現ー」, 第40回美術科教育学会, 2018. 3. 29, 滋賀大学(大津市)
25. 茂木一司・木暮萌, ジェンダー・LGBTQ と美術教育ーなぜ日本の美術/教育では難しいのか?ー, 第40回美術科教育学会, 2018. 3. 30, 滋賀大学(大津市)
26. 茂木一司, 招待講演「インクルーシブなつながりをアートから」, さぬき生活文化振興財団 第32回まなびあい勉強会, 2018. 6. 2, 十川東事業所「ともにスタイル館」(高松市)
27. 茂木一司・季里・名取和幸・住中浩史, デジタル色彩教育のこれから Part3 絵本の色 デジタル×アナログ, 第68回日本色彩教育研究会本部研修会, 2018. 8. 10, 日本大学芸術学部(東京都)
28. 吉岡洋・柳澤理子・川口淳一・朝倉由希・茂木一司, 「文化芸術による社会包摂は可能か? 芸術と医療・福祉の対話と越境」(ワークショップ&シンポジウム), 平成30年度文化庁と群馬大学との共同研究事業「文化芸術による社会包摂型度の評価手法・ガイドライン (エビデンス・プロジェクト評価)の構築とアート実践による検証研究: 地域アートプロジェクトの記録・評価・アーカイブの一体化による障害者及び高齢者等の生の高度化をめざして」, 2018. 11. 16, 特別養護老人ホーム永明(前橋市)
29. 茂木一司・多胡宏・大内進, 全盲児と使える図工美術題材開発の研究協力者ー視覚障害児者のためのインクルーシブ美術教育構築のためにー, 第41回美術科教育学会, 2019. 3. 26, 札幌大谷大学(札幌市)
30. 茂木一司・大内進, イタリアにおけるインクルーシブな視覚障害のための美術鑑賞, 第41回美術科教育学会, 2019. 3. 26, 札幌大谷大学(札幌市)

〔図書〕 (計6件)

1. 茂木一司(編集)・手塚千尋(編集)・夏目奈央子(編集・イラスト), 色のまなび事典(1) 色のひみつ, 星の環会, 2015, 1-64
2. 茂木一司(編集)・手塚千尋(編集)・夏目奈央子(編集・イラスト), 色のまなび事典(2) 色のふしぎ, 星の環会, 2015, 1-64

3. 茂木一司(編集)・手塚千尋(編集)・夏目奈央子(編集・イラスト), 色のまなび事典(2)色であそぶ, 星の環会, 2015, 1-64
4. 永守基樹・藤江充・藤原智也・奥村高明・岡崎昭夫・新井哲夫・笠原広一・茂木一司・佐藤賢司・神野真吾・山木朝彦・大嶋 彰・小野康男・辻 政博・宇田秀士, 美術教育学叢書① 美術教育学の現在から, 学術研究出版/ブックウェイ, 2018, 1-208
5. 神林恒道・ふじえみつる監修, 茂木一司他 21名, 美術教育ハンドブック, 三元社, 2018, 1-262
6. 茂木一司編集代表, 住中浩史, 春原史寛, 中平紀子, Nプロジェクト編, とがびアートプロジェクト, 東信堂, 2019, 1-264

[その他]

ホームページ等

<http://moka7887.p2.bindsite.jp/wldocs/index.html>

6. 研究組織

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：苅宿 俊文

ローマ字氏名：Kariyado Toshibumi

研究協力者氏名：池田 吏志

ローマ字氏名：Ikeda Satoshi

研究協力者氏名：布山 毅

ローマ字氏名：Fuyama Tsuyoshi

研究協力者氏名：手塚 千尋

ローマ字氏名：Tetsuka Chihiro

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。